

弟は強い

新見市立大佐中学校

三年 高島衣織

我が家は父母、祖父母、弟と私の六人で落ち着いた毎日
を過ごしています。ですが、過去には辛い出来事がありま
した。

それは弟の病気です。当時私は小学三年生、弟は幼稚園
年中と、お互い幼い頃にその病気は弟を襲いました。病名
は悪性リンパ腫、血液中に存在する細胞の中のリンパ球が、
がん化する病気です。病気が見つかるまで、弟は色々な病
院で検査をしました。自分の体が今どうなっているかも分
からず、症状に苦しむ弟を見てみると、私まで辛くなつて
しまいました。ある病院から、大きな病院での検査を勧め
られたとき、私は幼いながらに何か嫌な予感がしました。

後日、弟は母と二人で県内の大きな病院へ検査をしに行
きました。私は祖父母の家でいつも通り過ごしていました。
夕方、父の携帯に一本の電話がかかってきました。母から
です。私は、やつと原因が見つかった、これで弟が元気に
なるんだと安心していました。ですが、母と話している父
の表情はなんだか曇っていました。電話を終えた父はすぐ
さま祖母に話の内容を話していました。祖母の驚く表情に

私は不安を感じ、弟の検査の結果はどうだったのか聞きま
した。衝撃だったのでしょうか。その後何を思ったのか今は
覚えていません。これが私の弟の病気を知った瞬間でした。

その後の生活はとて大変でした。母は弟の付き添いを
するため、長い間家を空けました。そのため、普段父母、弟、
私の四人で生活していた家は父と私だけで過ごすことにな
りました。最初は不安でしたが、実際に二人きりになると
現実味が湧かず、あまり寂しさは感じませんでした。週末
は父の仕事が休みなので、土日は父が病院に、母が家に帰っ
てきました。当時の私は母が家に帰ってくるのがとても
嬉しく、話をたくさん聞いてもらっていました。一週間の
うちのたった二日でしたが、母が少しでもそばにいてくれ
るだけで、幼かった私はその後も寂しさを感じずにいられ
ました。

土日も終わり月曜日の朝、母が病院へ戻り父も家へ帰っ
てくると、さっそく父は一生懸命朝ご飯を作ってくれまし
た。今まで料理は母がしていたため、以前のような健康的
な献立ではなかったけれど、親に作ってもらった料理を食
べられるだけで私はとても嬉しかったです。ある日の朝、
リビングへ行くと、キッチンで料理をする父がいました。
何を作っているのか気になり見てみると、しょうゆラーメン
を二人分作っていました。朝からラーメン？と少し驚い
たけれど、大きな声で笑っている父を見るとなんだかか
楽しくなり、そのまま二人で一緒にラーメンを食べました。

いつもは一杯も食べられないラーメンを、この日は少し多く食べることができました。この日の朝ご飯は今でも忘れられない思い出になっています。

弟は誰よりも頑張っていました。初めての場所で不安もたくさんあるなかで、検査という検査を全て行い尽くしました。薬の影響で髪の毛が抜けたり、上手く歩けなくなったり、辛いこともたくさん経験しました。ですが、母から送られてくる写真の弟は、いつも笑顔でした。父、祖父母と病院へ面会に行つたときも、楽しそうにゲームや話をしてくれるため、私は、弟は強いんだ、と思っていました。しかしある日、母から動画が送られてきました。見てみると、弟が薄暗い病室で泣きながら、「姉ちゃんのとこ行きたい」と言っていました。私はそのとき、弟の気持ちを理解しきれないことに気付きました。誰よりも辛いのは弟だ、と改めて実感し、今まで以上に弟を支えていこうと思いました。

その後は、プレゼントでもらったゲーム機が弟の暇つぶしのために持つていかれても、母が家に帰ってくる回数に不満を持つても我慢しました。家族一人一人が、弟のために、弟は自分の体のために、全員がたくさん我慢をしました。みんなが病気と闘いました。

一年後、弟は長い治療の末、病気に打ち勝ちました。退院の日、家族全員でたくさん泣きました。その後、弟と一緒に家で過ごしたり、幼稚園の運動会でたくさん走ったり

できるようになりました。楽しいことばかりで、辛かった一年もすぐに忘れられました。

この経験を通して、私たち家族はお互いを支え合うことの大切さを学びました。自分だけが辛いと思わず、みんな同じようにそう思っていることを忘れないで、解決に向けて全員で協力することが大事だとわかりました。当時わからなかったことも今だからこそ理解できることもあります。これからの生活でも、家族や友人と支え合い、未来に向けて努力していきたいと思えます。

今、弟は毎日元気に過ごしています。闘病生活を耐え抜いた弟は、とても強いです。